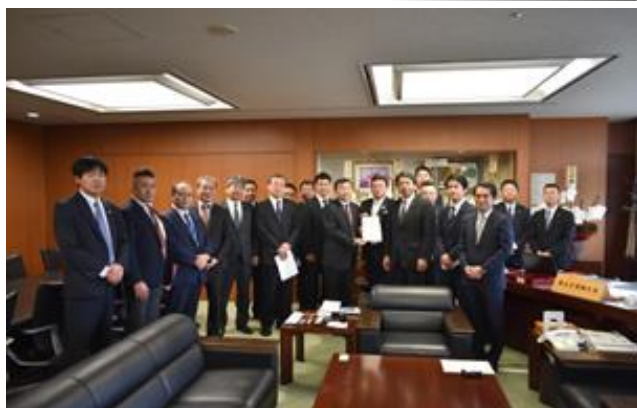


自然災害による鉄道被災からの復旧・復興・防災・減災への支援強化。 2019年税制改正要望の実現に向けて。 「国土交通省副大臣への要請行動」を行う

11月29日、JR連合は、自然災害による鉄道被災からの復旧・復興・防災・減災への支援強化。2019年税制改正要望の実現に向けて、「国土交通省副大臣への要請行動」を行い、JR各単組代表者とともに、JR連合国会議員懇談会から、榛葉賀津也会長（参）、泉健太副会長（衆）、小川淳也事務局長（衆）、長浜博行幹事（参）、大串博志幹事（衆）の5議員が同行し、貨物鉄産労からは、辻村書記長が出席しました。冒頭、大塚副大臣に対し、榛葉会長・JR連合松岡会長から、西日本豪雨を始めとした、全国各地で起きた自然災害による、JR各社の被害状況を説明し、今後、自然災害が強大化していくことを危惧しており、国民には欠かさずこの出来ない鉄道の必要性を訴えました。続いて、各単組から発言があり、辻村書記長からは、「西日本豪雨で山陽線が長期間不通となり、JR貨物は約100億円の損出が出た。貨物会社の設備に被害は出なかったが、ご承知の通りJR貨物は、各旅客会社の線路をお借りし運行している。

鉄道が止まれば、通勤通学・観光等に大きな影響を与えるだけでなく、工場の生産ライン停止や物資不足等、経済や物流にも大きな影響を与え、公共交通機関の観点から、鉄道強靱化対策費用を各旅客会社だけに負担させるので



は、国が支えるべきである。また、国が進めるモデルシフトに関して、JR貨物には東京貨物ターミナルという主要な拠点が大井埠頭の横にあり、羽田空港からも近距離である。

現在、この場所に大型倉庫を建設中であり将来的には2棟完成予定である。この立地条件の良さを活用し、国が主導して陸海空の結節推進を図って頂きたい」と発言しました。大塚副大臣からは、「鉄道物流の必要性は十分理解している。国としてモデルシフトも含めて注力していく」と述べられました。

第24回地方議員懇談会総会を開催

11月29日、都内において、JR連合は、第24回地方議員懇談会総会を開催し、貨物鉄産労からは、辻村書記長が出席しました。

中原副会長による開会の挨拶後、副会長を議長に選出し、中田代表幹事・JR連合松岡会長から挨拶を頂戴し、JR連合より、これまでの活動経過を報告した後、協議事項、新年度の活動方針（案）・地方における公共交通の実態把握に向けた取り組みの展開・JR北海道、JR四国、JR貨物を長期的に支える仕組みの構築・整備新幹線に係る諸問題への対応・第19回統一地方選挙への対応・第25回参議院議員選挙への対応・役員選出について提起した。その後、各地方議員から挨拶を頂戴し意見交換を行い、中濱副会長による閉会の挨拶で会は終了しました。



第14回・21世紀を考える議員フォーラムを開催

11月29日、都内において、JR連合は、「第14回・21世紀を考える議員フォーラム」を開催し、貨物鉄産労からは、小笠原副委員長、辻村書記長が出席しました。



榛葉賀津也会長

小川淳也事務局長による開会挨拶後、榛葉会長・JR連合松岡会長よりご挨拶を頂戴し、JR連合河村事務局長より、これまでの活動経過報告をした後、協議事項、新規加入議員の確認・新年度の活動方針（案）・2019年度税制改正要望・西日本豪雨をはじめとする自然災害による鉄道被災に関する政策要望、要請行動・JR北海道、JR四国、JR貨物を長期的に支える仕組みの構築・整備新幹線に係る諸問題への対応・組織課題の解決に向けて議員フォーラム所属議員との連携・19回統一地方選挙への対応・第25回参議院議員選挙への対応・役員選出について提起しました。その後、JR連合の政策課題、「2019年度税制改正に向けた取り組み」「喫緊の交通政策課題と対応」についてJR連合中村部長より

提起され、小川淳也事務局長による開会の挨拶で会は終了しました。その後、場所を移動し懇親会を開催しました。



懇親会で挨拶する泉健太副会長

第14回業種間安全検討会を開催

12月4日、那覇市内において、JR連合は、第14回業種間安全検討会を開催し、貨物鉄産労からは辻村書記長が出席しました。

今回は、航空連合によるご協力のもと那覇空港において開催しました。安全対策委員会中原委員長による開会挨拶後、JR連合松岡会長、航空連合代表として平澤航空連合沖繩事務局長、お二人からご挨拶を頂戴し、那覇空港内の施設概要説明及び航空連合沖繩加盟の各労使での取り組みを紹介した後、那覇空港周辺施設見学となりました。ANA沖繩空港（株）オペレーションセンターや安全考動資料館や、JTA（株）格納庫における整備、トレーニングセンター等を見学し、日々の安全運行への取り組み等について説明を受けました。

見学終了後、意見交換会を行い、辻村書記長は、「JR貨物では、違う



J T A格納庫

列車にコンテナを積まないよう、コンテナ一つ一つにICタグを取り付け、フォークリフトがコンテナに爪を差すと、運転室にある端末に列車番号が表示され、誤載を防ぐハード対策をしているが、那覇空港ではどのような対策をしているか。天候等で遅れが発生した場合、機体の運用はどのようにしているか。今後、那覇空港では貨物の取扱量が増えるという資料に記載されているが、労働者の要員確保はどのようにやっていくのか、外国人労働者も視野に入れていくのか」と質問し、航空連合より、「JR貨物のようなハード対策がないと、荷物の積み込み防止については、人の目で3段階に分けて3重チェックを行っているのが現状である。機体の運用については、予備機で対応する機会が多いが、常に予備機を使用出来るとは限らないため、そのような場合は行き先によって時間変更等を行い対応している。労働者不足については大きな課題と認識しており、今後、外国人労働者も視野に入れなければならないと考えている」と答えられました。閉会挨拶後、国際通りにある居酒屋において懇親会を開催し、沖縄料理を堪能しました。

J T Aトレーニンングセンター
緊急脱出訓練



松岡会長挨拶

業種間安全検討会の前段に、JR連合安全対策会議を開催し、各社で起きている労災や事象をあげ、度重なる自然災害への対応・重大労災撲滅へ向けての対策・重大インシデント再発防止等を議論しました。特に、JR北海道で起きた、信号機柱が倒れて線路を支障した事象は、一つ間違えれば大惨事になった可能性があります。再発防止に努めていかなければなりません。来年、10月22日、高松市内において、第11回安全シンポジウムが開催されます。

今回の検討会を通じて率直な感想は、荷物の仕分けを人海戦術で行っていることに、まず驚かされました。空港ともなれば最新技術が整備されて当たり前と思っていたからです。労働者不足による人材確保については、JR貨物も同じ課題であり、今後どのように対応していくか喫緊の課題であります。

第13回政策シンポジウムを開催

JR連合は、12月12日、京都市内において、「将来に亘り経済・社会へ貢献し、信頼され続けるJR産業の構築にむけて」取り巻く環境の変化に対応し、将来を見据え、未来志向で働き方を描こう！と第13回政策シンポジウムを開催し、本部長村書記長・植岡中執・貨物鉄道労3名・南関東ロジ3名・中国ロジ2名、計10名が参加しました。

JR連合河村事務局長による開会挨拶後、主催者を代表してJR連合松岡会長よりご挨拶を頂戴した後、第一部の特別講演では、まず、(独)労働政策研究・研修機構調査部主任調査部山崎憲氏より、「AI等の技術革新の動向と労組の課題」を静聴し、続いて、法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授藤村博之氏より、「変化対応力を高める働き方と労働者組合員の役割」環境変化に強い組織と個人をつくる」を静聴しました。

第二部での単組報告では、貨物鉄道労植岡中央執行委員より、「JR貨物においての、第4次産業革命を見据えた政策課題」を発表し、組合としての役割を強く述べられました。

第三部では、パネルディスカッション「取り巻く環境の変化への対応と、将来を見据えたJR産業の労働政策」

について、藤村氏をコーディネーターに、JR九州取締役常務執行役員廣川氏(公財)大原記念労働科学研究所特別研究員松田氏・JR西労組企画・総務部長羽野氏・JR連合労働政策部長北村氏をパネリストにし、今後どのように対応していくか意見交換が行われました。第四部では、JR連合政所企画部長より、新中期労働政策ビジョン(2019～2023)策定PT報告・新ビジョン骨子を提起し、最後にJR連合鎌田副会長による閉会の挨拶で、シンポジウムは終了しました。

日本の経済・社会を支えているのは「人財」であります。経済資源である「人財」が生き活きと働ける労働条件・環境を整えるのが労働組合の役割です。現在、新人事賃金制度の交渉中ですが、労働条件の最たる賃金について、誰もが納得出来る制度になるよう鋭意に進めていきます。



JRグループ労組連絡会・第16回分科会プロジェクトを開催

JR連合は、12月13日、大阪市内において、JRグループ労組連絡会・第16回分科会プロジェクトを開催し、大杉委員長・南関東ロジ

山田委員長が参加しました。開会挨拶後、JR連合松岡会長よりご挨拶を頂戴した後、2019春季生活闘争方針、中期労働政策ビジョン(2019～2023)構成・骨子の策定に向けての議論がされました。



お知らせ
・メロン物販、ご協力ありがとうございました。
・本部署は、12月29日～1月6日まで不在となります。

今年、最後の新聞発行となりました。今年も発行に際し、ご理解ご協力を賜り大変ありがとうございました。体調管理を整え良いお年をお迎えください。

教宣部より。